



令和

×

ごみ



今、私たちにできること



【目次】

1. はじめに , S D G s	…	1 頁
2. 食品ロス	…	2 頁
3. 枚方市の取り組みの紹介	…	5 頁
4. 海洋プラスチック	…	6 頁
5. 行政と市民の協働の取り組みの紹介	…	9 頁
6. ごみ減量の行動チェックリスト	…	10 頁

令和

Reiwa

はじめに

本冊子では、令和の時代を迎えた今だからこそ、枚方市民のみなさまに知っていただきたい近年のごみ問題について、また、それらを解決するために一人ひとりが取り組めることを紹介しています。

未来の子どもたちへ、「環境を守りはぐくむまち」を引き継ぐために、まずはできることから始めてみましょう。

持続可能な開発目標 S D G s (エス・ディー・ジー・ズ)

S D G s (Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰ひとり取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





食品
ロス

貧困層を



世界の食料援助量より多かった。

食品ロス削減推進法

「食品ロスの削減の推進に関する法律」
(略称 食品ロス削減推進法)が令和元年10月1日に施行されました。

本法は食品ロスの削減に関し、国、地方公共団体等の責務等を明らかにするとともに、基本方針の策定その他食品ロスの削減に関する施策の基本となる事項を定めること等により、食品ロスの削減を総合的に推進することを目的としています。
法律の前文の概要は次のとおりです。

・ 世界には栄養不足の状態にある人々が多数存在する中で、とりわけ、大量の食料を輸入し、食料の多くを輸入に依存している我が国として、真摯に取り組むべき課題であることを明示
・ 食品ロスを削減していくための基本的な視点として、①国民各層がそれぞれの立場において主体的にこの課題に取り組み、社会全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくこと ②まだ食べることができる食品については、廃棄することなく、できるだけ食品として活用するようにしていくことを明記

世界の食料援助の1.7倍

世界中の飢餓に苦しむ人々に向けた食料援助量は380万トン(平成29年)です。対して日本の食品ロスはこれの2倍近くとなる643万トン(平成28年度推計)を年間で廃棄しています。これは国民1人当たりになると年間51kgとなり、1人当たりの米の年間消費量(約54kg)に相当します。1日当たりでは、1人お茶碗約1杯分の食べ物を毎日捨てていることになります。



子どもの貧困は7人に1人

厚生労働省の平成28年国民生活基礎調査によると、7人に1人の子どもの貧困で食事に困っています。家計における食費の支出は決して低いものではありません。食べ残しや期限切れの手つかず食品などにより多くの食料を廃棄する一方で、食べたくても満足に食事ができない子どもがいます。

3分の1ルール

消費者庁によると、国内の食品ロスの半分以上は事業者から排出されています。食品製造業では製造工程におけるロス(パンの耳など)、食品小売業では売れ残り、外食産業では食べ残しや仕込み時にそれぞれ食品ロスが発生しています。

他にも商慣習として3分の1ルールというものがあります。これは賞味期限の3分の1までを小売店への納品期限、次の3分の1までを消費者への販売期限とする商慣習です。例えば、賞味期限が6か月の食品の場合、製造してから2か月以内に小売店に納品しなければならず、次の2か月以内に消費者に売らなければなりません。その期限を過ぎると、返品や廃棄処分となります。

なんとなく食べ残したひとくち。は、

私たちにできること

食品ロスを削減するためには、私たち一人ひとりが「もったいない」という気持ちを持って、食品ロスの現状や削減の必要性について理解し、主体的な行動をすることが求められています。ロスを減らした分だけ節約できて家計にも優しくなります。まずはできることから始めていきましょう。

購入編 ～買いすぎない～

「まとめて買ったほうが安かったから」

- ・値段だけではなく使い切れるか意識して購入しましょう。
- ・買い物の前には冷蔵庫の中身をチェックしましょう。
- ・すぐに使う食品はなるべく手前の消費期限が近い商品をとしましょう。



自宅編 ～作りすぎない・ムダにしない～

「沢山食べると思ったから」「賞味期限が切れたから」

- ・作り置きできる料理を意識してロスをなくしましょう。
- ・賞味期限は目安です。品質が悪くなる日付ではありません。おいしく食べられる目安にしましょう。
- ・消費期限は安全に食べられる期限です。この期限が過ぎたら無理に食べない方が良いでしょう。
- ・使う予定のない食品は、おすそわけしたり、フードドライブ※を利用しましょう。

※買い過ぎた、使わなかった、手をつけなかったものなどを捨てないで寄付する取り組みのこと。

外食編 ～注文しすぎない～

「食べられると思ったから」「宴会の挨拶回りでつい」

- ・自分自身の食事の適正量を知り、食べきれると思う量を注文しましょう。
- ・無理に食べると身体に負担がかかります。自己責任の範囲内で持ち帰りが可能か店舗に確認してみましょう。
- ・「3010運動（さんまるいちまる）」宴会始めの30分間と終了前の10分間は自席に戻って料理を楽しみましょう。



枚方市の取り組みの紹介

食べのこサンデー運動

市は、食べ残しによるごみを減らす独自の取り組みとして「食べのこサンデー」運動を展開しています。

日曜日には食品ロス削減を改めて意識し、日々の行動につなげていただくよう呼びかけるものです。食べ物に「もったいない」の気持ちを！

食べ物に「もったいない」の気持ちを！



環境フェスタ「ごみ減量フェア」

市民のみなさまにごみの問題を、「楽しく」・「分かりやすく」理解していただくため、毎年、穂谷川清掃工場で「ごみ減量フェア」を開催しています。

工場見学会や収集体験のほか、ごみ減量に関するブースでは、パネル展示やミニクイズ等を実施し、ごみ減量を呼びかけています。

また、ひらかた夢工房の活動団体による展示販売、市民によるフリーマーケット、粗大ごみとして排出されたものの中から再使用可能な物（リユース品）を提供する抽選会等は毎年ご好評いただいています。



啓発ブース



収集体験



東部清掃工場では環境フェスタ「氷室ふれあい里の駅」を開催しています。

街頭キャンペーン

ごみ減量の取り組みについて市民のみなさまに知っていただくため、市内の店舗や駅前で生ごみの水切りによるごみ減量や、マイバッグ等の利用促進、食品ロス削減の啓発活動を行っています。



紙類の「分別回収 / 拠点回収」

家庭から排出される一般ごみの中に含まれているリサイクル可能な紙類を回収するために、令和元年6月から紙類の分別回収及び穂谷川清掃工場・東部清掃工場での拠点回収を始めています。





海洋 プラ



海洋プラスチック・ マイクロプラスチック問題

近年、海岸に打ち上げられたクジラの胃から、大量のプラスチックごみが発見されるというニュースが世界各地で報じられています。また、海に漂流するプラスチックごみや、小さな破片となったマイクロプラスチック（サイズが5mm以下の微細なプラスチック）を魚や貝、海鳥が食べてしまうなどの例も確認されています。

プラスチックは、レジ袋やペットボトルとして、また、洗面器などの家庭用品としても使用される、身近で便利な素材です。しかし、適切に排出せずに放置されると雨や風によって河川などを通じて海に流れ込み、冒頭のような、生態系に悪影響を与える深刻な問題になっています。



国の取り組み

環境省では、海洋プラスチックごみの削減に向け、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国に推進する「プラスチック・スマート」キャンペーンを展開しています。問題解決に向けては、消費者を始め自治体・企業などの幅広い主体が、それぞれの立場でできる取り組みを行い、プラスチックと賢く付き合っていくことが重要です。

大阪府の取り組み

大阪府と大阪市では2019年G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博の開催地として、使い捨てプラスチック削減の更なる推進やプラスチックの資源循環の推進などを盛り込んだ「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を2019年1月28日に共同で実施しています。



Plastics Smart

大阪府

海ごみが海の生き物を傷つけます

プラスチックごみから海を守ろう!

わたしたちにできること

マイバッグを利用するなど、使い捨ての習慣を見直しましょう!
プラスチックごみのポイ捨ては絶対にやめましょう!
河川や海岸等の清掃活動に積極的に参加してみましょう!

大阪府ではSDGsの推進を図り、SDGs先進都市をめざします

私たちにできること

プラスチックはコストが低く便利なものですが、ポイ捨てなどにより回収されずに河川などを通じて海に流入すると海洋汚染など地球環境に影響を与える場合があります。

不要となったペットボトルやレジ袋、商品の包装材などのプラスチック製容器包装をきちんと分別し、排出しましょう。また、マイボトルやマイ箸などを利用して、プラスチック製使い捨て容器の使用を減らすなど、私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす取り組みをしていくことが重要です。



「レジ袋有料を義務化」

令和2年7月1日から一律に施行

⇒「当たり前」に受け取るから

「当たり前」に受け取らない時代へ
令和元年12月に国から示された
「プラスチック製買物袋の有料化のあり方について」では、消費者のライフスタイル変革を促すべく、あらゆるプラスチック製買物袋について有料化することにより過剰な使用を抑制することを基本としています。

ひらかた

プラごみダイエット ～ポイ捨てゼロ宣言

枚方市では、「環境を思いやるまち枚方」を実現するため、市民・市民団体・事業者・行政が連携・協力して、環境保全活動に取り組んでいます。

近年、私たちの生活に広く普及し、欠かせないものとなっているプラスチック製品が不用意にポイ捨てされるなど適正に処理されず、河川などを通じて海へ流れ込み、長年にわたって環境中にとどまり続けることで、海洋汚染を引き起こし、生態系や人への影響が懸念されています。

海洋プラスチック問題は、決して枚方市においても無関係な問題ではなくその解決・改善のためには、ポイ捨てをしない・させない環境づくりや使い捨てプラスチックの使用を削減することが不可欠です。

こうしたことから、枚方市では、市民・市民団体・事業者・行政が連携・協力し、プラスチックごみ等ポイ捨て防止の啓発活動や使い捨てプラスチックの削減に向けた4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の取り組みを推進して、プラごみダイエット～ポイ捨てゼロを宣言します。

枚方市では、プラスチックごみ削減のため、まずは次の事項に取り組めます。

- アダプト団体等と連携したポイ捨て防止の啓発とクリーンリバーの拡充
- 市内の商店等と連携したレジ袋の削減



令和元年6月1日
枚方市長 伏見 隆



「クリーンリバー活動」

毎年「ひらかたクリーンリバー」として市民・事業者・行政の協働により、天野川、穂谷川、船橋川の清掃活動を行っています。清掃活動を通じて清流の復活とポイ捨てさせない環境づくりなど環境保全意識の高揚を目指しています。

行政と市民の協働の取り組みの紹介

廃棄物減量等推進員

「地域の情報発信リーダー」

廃棄物減量等推進員のみなさまには、ごみ減量に係る施策の地域住民への伝達や、ごみ減量意識の啓発に関する地域での活動及び、ごみ置場のカラス対策や清潔保持に係る啓発活動など、本市ごみ減量施策の情報発信リーダーとしての役割を担っていただいております。

市が主催する総会や研修会・イベントなどを通して、本市のごみ減量施策を学ぶとともに、自治会や地域のみなさまと連携しながらごみの発生抑制を最優先とした4Rの取り組みについて、普及啓発していただいております。



ひらかた夢工房

「ごみ減量のボランティア活動」

「ひらかた夢工房」は、穂谷川清掃工場に隣接するリサイクル施設です。ごみとして捨てられるものの中でも、まだまだ使えるものがたくさんあります。

また、使えないものは、捨てるのではなく材料として別のものに生まれ変わらせることも出来ます。

「ひらかた夢工房」ではごみの発生抑制・再使用・再生利用など、ごみ減量につながる活動を市民ボランティアが行っています。



活動の紹介

- 廃自転車の修繕・修復 -

乗れなくなった自転車を修繕・修復して再び乗れるようにしています。また、定期的に自転車点検・整備教室も開いています。

- 家具・廃材の再生 -

使わなくなった廃材を使って、手作りでの机や椅子、積み木などのオブジェによみがえらせています。

- 衣類（和服）の再生 -

着ることがなくなった着物や古布を使って洋服やかばん、ポーチなど作っています。

- 生ごみの堆肥化 -

EM（有用微生物群）やコンポスト容器を使った生ごみの堆肥化方法の指導を行っています。

- 壊れたおもちゃの修理 -

動かなくなったおもちゃを診断・修理しています。また、すぐに直せない場合はお預かりして修理をします。

- 廃材を使った自助具の製作 -

様々な身体状況により、日常生活が困難になった人の動作を助ける小さな道具を製作しています。

1人1日25gの減量にご協力をお願いします。

枚方市では、令和7年度に家庭から出るごみ量を52,208tに減らすことを目標にしています（平成30年度と比較して5,308tの削減）。一人ひとりができるごみ減量の行動にご協力をよろしくお願いします。

平成30年度

1人1日当たり

504g

-25g

令和7年度

1人1日当たり

479g



25g のイメージにご活用ください

封筒 1枚

(角2サイズ)



A4用紙 5枚



ピーマン 1個



ペットボトル 1本

(500ml)



レジ袋 3枚

45号 (30cm×53cm)



※重さについては目安です。

Let's Challenge!!

ごみ減量の行動チェックリスト

1. 食品ロスの発生抑制		はい
①	買い物の前に、冷蔵庫の中身や賞味期限等を確認している。	
②	買い物メモを作るなど、必要なものを計画的に買うようにしている。	
③	献立は、賞味期限の近いものから使うなど、無駄にしないよう工夫している。	
④	冷蔵庫のあまりものだけで調理することがある。(冷蔵庫の整理デー)	
⑤	食べ残しがでないよう、家族で食べる分量を計算・把握して調理している。 (計算・把握していなくても食べ残しが出ていなければ「はい」)	
⑥	料理があまっても、冷凍保存などを活用し、できるだけ無駄にしない。	
⑦	夏場など、賞味・消費期限等に注意し、食べられるうちに食材・食品を使っている。	
⑧	家庭で消費しきれない食材等は、食べられる間におすそわけしたりフードドライブを利用している。(家庭で消費しきれている場合は「はい」)	
2. プラスチックごみの分別と発生抑制		はい
①	ペットボトル・プラスチック製容器包装の分別を日々行っている。	
②	なるべくマイバッグ等を持ち歩き、レジ袋は断るよう心がけている。	
③	なるべく水筒などのマイボトルを持ち歩くよう心がけている。	
④	包装の簡易な商品や、詰め替え商品を優先的に選んでいる。	
3. 紙ごみの分別と発生抑制		はい
①	新聞紙、段ボール、雑誌・雑がみは地域の集団回収か、行政の紙類の分別回収に出している。	
②	不要なダイレクトメールなどは一般ごみに捨てずに、古紙として出している。	
③	紙皿や紙コップなどの再利用できないものは、なるべく使わない。	

☑ 「はい」 が 15個 …………… 素晴らしいごみ減量行動ができています！

あなたの行動をお知り合いの方に教えてあげてください。

☑ 「はい」 が 10～14個 …………… 熱心に取り組まれています！これからも継続してください。

☑ 「はい」 が 5～9個 …………… あと一歩の努力をお願いします！

☑ 「はい」 が 0～4個 …………… これからがんばりましょう！

ごみの分け方・出し方がわかる

ごみ分別アプリ さんあ〜る



ごみの分別方法に悩んだり、収集日がわからなくなることはありませんか？
ごみ分別アプリ「さんあ〜る」は、ごみの日のカレンダーがついているほか、
ごみを分別辞典で手軽に検索したり、アラームでごみの収集日をお知らせする
機能などがついたスマートフォン向けアプリです。



主な機能

ごみ分別辞典〜50音順

☒ 1,700品目以上の分別辞典からごみの出し方や料金を調べることができます。

ごみの冊子

☒ 家庭ごみの分け方・出し方の冊子やごみに関する各種チラシを閲覧することができます。

ごみカレンダー

☒ お住まいの地域のごみの収集日や年末年始の収集日がカレンダー形式で確認できます。

粗大ごみの申し込み

☒ アプリから粗大ごみのインターネット予約へダイレクトリンク。24時間いつでもできます。※

※粗大ごみを初めて申し込まれる場合は電話予約のみとなります。

ごみの日の通知

☒ 毎日指定した時間にその日もしくは次の日に出せるごみをアラームでお知らせできます。

アプリのインストール方法

 **DOWNLOAD**

スマートフォンをお持ちの方は、
右記のQRコードからダウンロードできます。

携帯端末のアプリストアから「さんあ〜る」と検索して、ダウンロードもできます。



さんあ〜る

検索



令和2年 3月

編集・発行 枚方市 環境部

問い合わせ TEL072-849-5374 FAX072-848-1821

本冊子は、枚方市スマートライフ推進基金を活用しています。